

緊急企画

報告と対話のつどい

10年後の古賀市のために

2021年・令和3年 11月14日(日)

主催: 会派・友和(ゆうわ)

森本義征、清原哲史、奴間健司

「報告と対話のつどい」

～10年後の古賀市のために～

- (1) 開会(午後2時)
- (2) 主催者挨拶 森本義征(会派・友和代表)
清原哲史、奴間健司
- (3) 総合計画などの概要解説(20分)
- (4) 参加者の皆さんとの対話(50分)
 - ◎ご質問、ご意見
 - ◎市の提案をどうするか
- (5) まとめとお礼の言葉(午後3時30分)

第5次総合計画

基本構想(案)

2022年度～2031年度

市民参画
まちづくりの指針

少子・超高齢化
10年先のビジョン

総合計画

目的

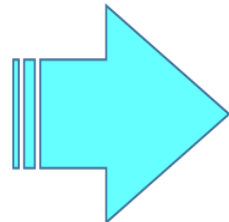
将来像

大綱

全部署・全職員の
行動の指針

財政・人事
行財政運営の指針

第4次総合振興計画



第5次総合計画

都市イメージ
人口目標
土地利用

基本
構想

重点プロジェクト
政策別基本目標
基本方針・主な施策
代表的指標

基本
計画

前期
5年間

後期
5年間

基本
構想

- 都市イメージ
- 基本指標・土地利用
- 基本目標ごとの
政策・施策
- 基本構想の推進指針

アクション
プラン

具体的事務事業

4年間 × 7プラン

毎年ローリング

議会の議決が必要

11月18日に総括質疑(市長質疑)

11月24日に討論・採決を予定

※採決前に市民の声を

※提案は差し戻しを

ひと育つ　こが育つ

人がまちを支え　まちが産業を支え
産業が人を支え　みんなが育つ
未来に向かって育ち続けるまち

10年後の都市イメージ（案）
皆さんはどう思いますか？

すべての人が尊重し合い 未来を拓く子どもたちが輝くまち

- ①子育て支援の充実
- ②学校教育の充実
- ③つながりを深める学ぶ機会の充実
- ④人権と多様性の尊重

すべての人が地域で支え合い 健やかに暮らせるまち

- ①地域保健の推進と医療との連携促進
- ②介護予防と高齢者福祉の推進
- ③障がい者福祉の推進
- ④地域福祉の推進と包括的支援の充実

産業が暮らしを支え 地域をつなぎ すべての人が豊かさ にぎわいを感じられるまち

- ①商工業・観光の活性化
- ②農林業の振興

都市基盤と環境が調和し すべての人が快適で安心して暮らせるまち

- ①良好な都市環境の形成
- ②持続可能な公共交通の実現
- ③命と暮らしを守る対策の推進
- ④環境の保全と継承

— 基本構想の推進のための指針 —

すべての人が つながり 考え 創る みんなが主役のまち

- ①みんなでつながる地域づくりの推進
- ②積極的な情報発信・情報共有とシティプロモーションの推進
- ③市民から信頼される持続可能な行財政運営

まちづくり指標（案）
皆さんはどごう思いますか？

第2章 まちづくりの方向性

1 基本指標

まちづくり指標（主観指標）

令和元（2019）年度に実施した「まちづくりに関する市民アンケート調査」の結果をもとに、「住みよさ指標」「定住指標」の2つの指標を設定します。

住みよさ指標

古賀市は住みやすいと感じる人の割合

74.2%（令和元（2019）年度） → **上昇**（令和13（2031）年度）

※アンケート設問内容

現在の古賀市の「住みやすさ」についてどうお感じですか。
（「住みやすい」「どちらかといえば住みやすい」の合計）

定住指標

今後も古賀市に住み続けたいと考える人の割合

59.7%（令和元（2019）年度） → **上昇**（令和13（2031）年度）

※アンケート設問内容

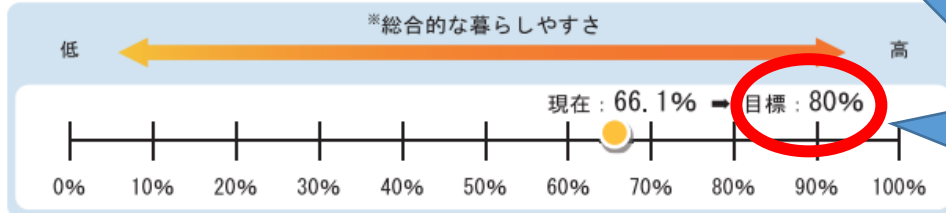
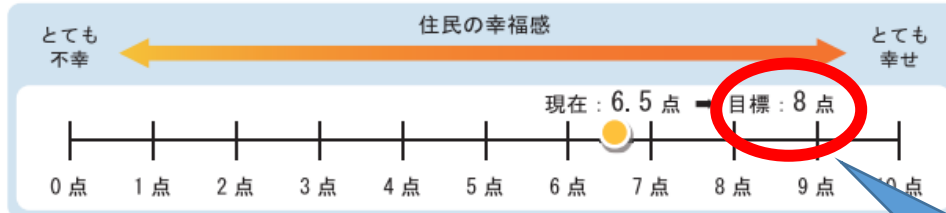
あなたはこれからも古賀市に住み続けたいと思いますか。
（「今の場所に住み続けたい」「市内の別の場所に移りたい」の合計）

「上昇」が
目標？

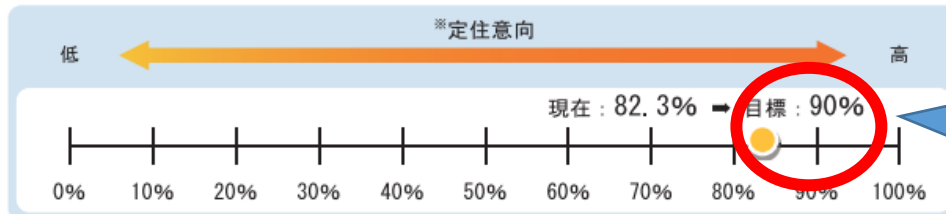
2 住民の幸福感・暮らしやすさの指標

新たなまちづくりの達成度を測るための“ものさし”として、まちづくりの基本指標を次のとおり設定します。

図表 まちづくり基本指標



※「暮らしやすい」、「どちらかといえば暮らしやすい」と回答した方の割合



※「ずっと住むつもりである」、「当分転居するつもりはない」と回答した方の割合

※指標は令和元年8月実施 住民アンケート結果から

比較参考 大分県玖珠町 第6次総合計画

幸福感、暮らしやすさ、
定住意向の
数値目標を設定

皆さんはどう思いますか？
想定人口6万人（案）

想定人口（客観指標）

本市の人口は、近年緩やかな増加傾向が続いており、令和2（2020）年9月末現在の人口は59,694人とほぼ6万人規模に達していますが、第2期古賀市人口ビジョンでは、令和7（2025）年をピークに減少に転じ、その後は緩やかに減少していくと予測しています。

国全体において人口減少・高齢化が進展するなか、本市が、将来的な人口減少社会における課題に立ち向かい、将来にわたって持続可能なまちづくりを進めていくためには、子育て世代にとって魅力的なまちづくりや、企業立地による税収の確保と雇用の創出、既存ストックを有効活用した計画的・効率的な人口集積などの施策を推進し、現在の人口規模を可能な限り維持することが望ましいことから、想定する人口規模を6万人とします。

想定する人口規模 60,000人

「現在の人口規模を可能な限り維持することが望ましい」

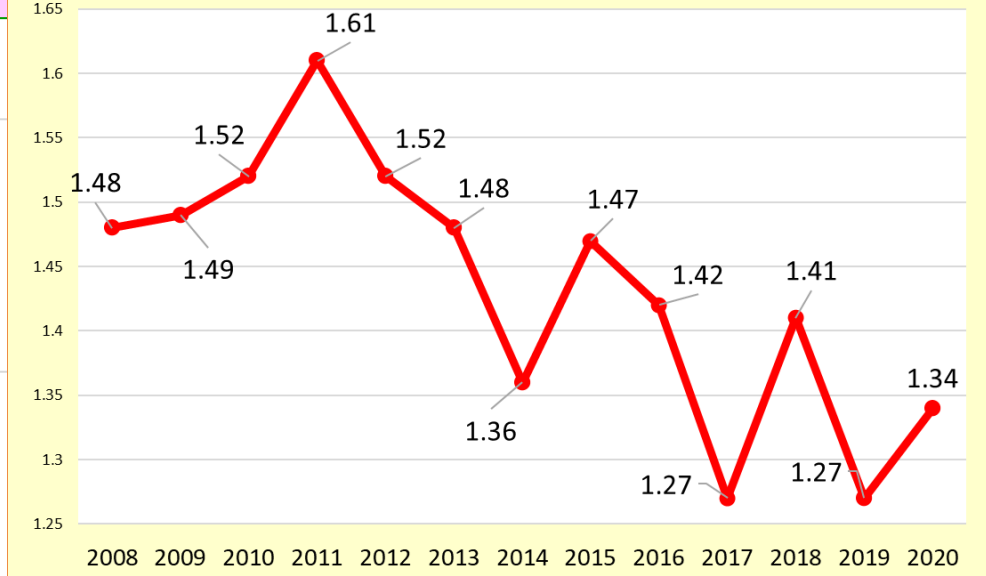
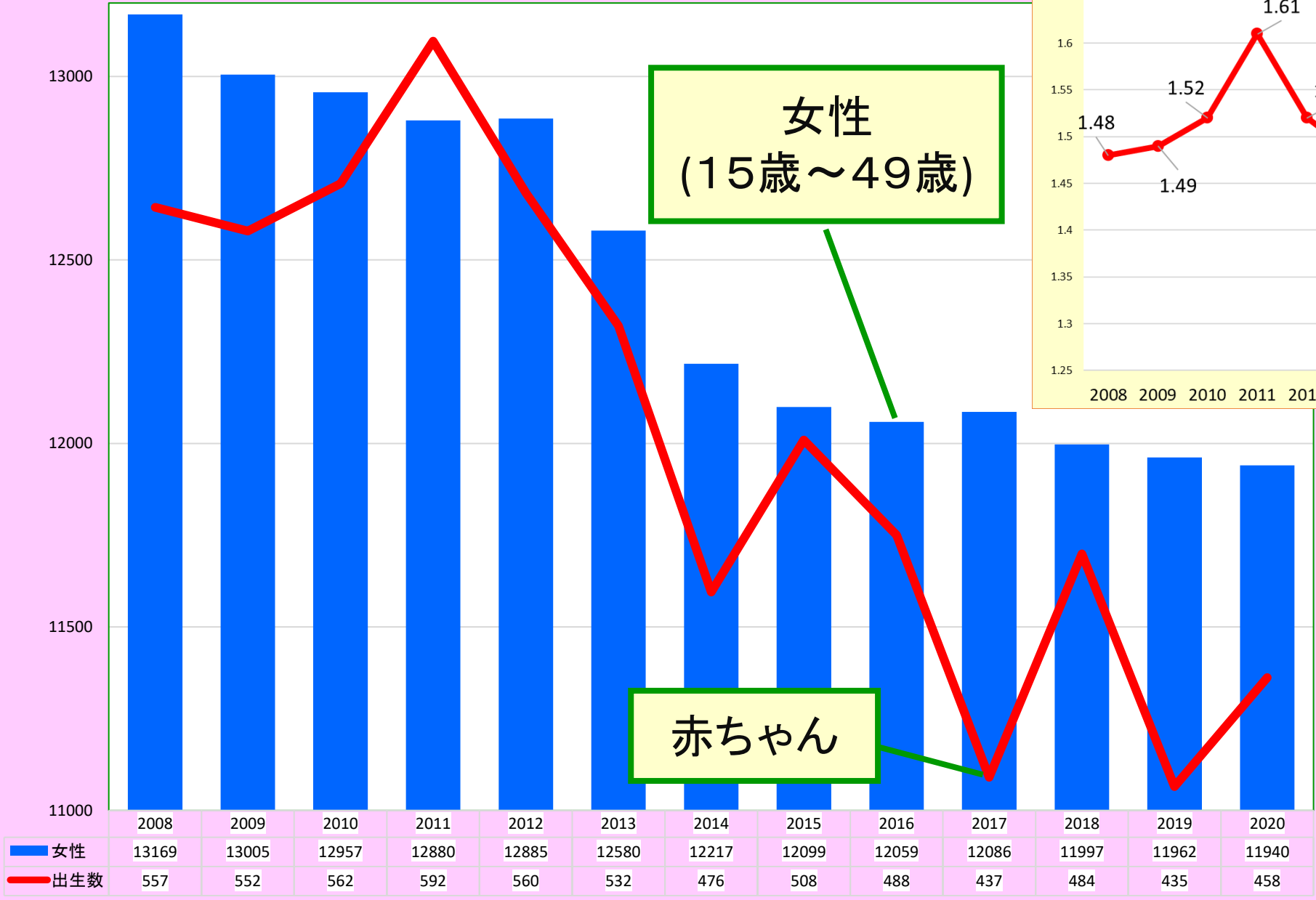
古賀市・パターン別将来推計人口
「第2期古賀市人口ビジョン」(2020年3月)



古賀市の人口推計です
2025年をピークに減少
皆さんはどう思いますか？

古賀市・女性と出生数(女性は15歳から49歳)

古賀市合計特殊出生率の推移



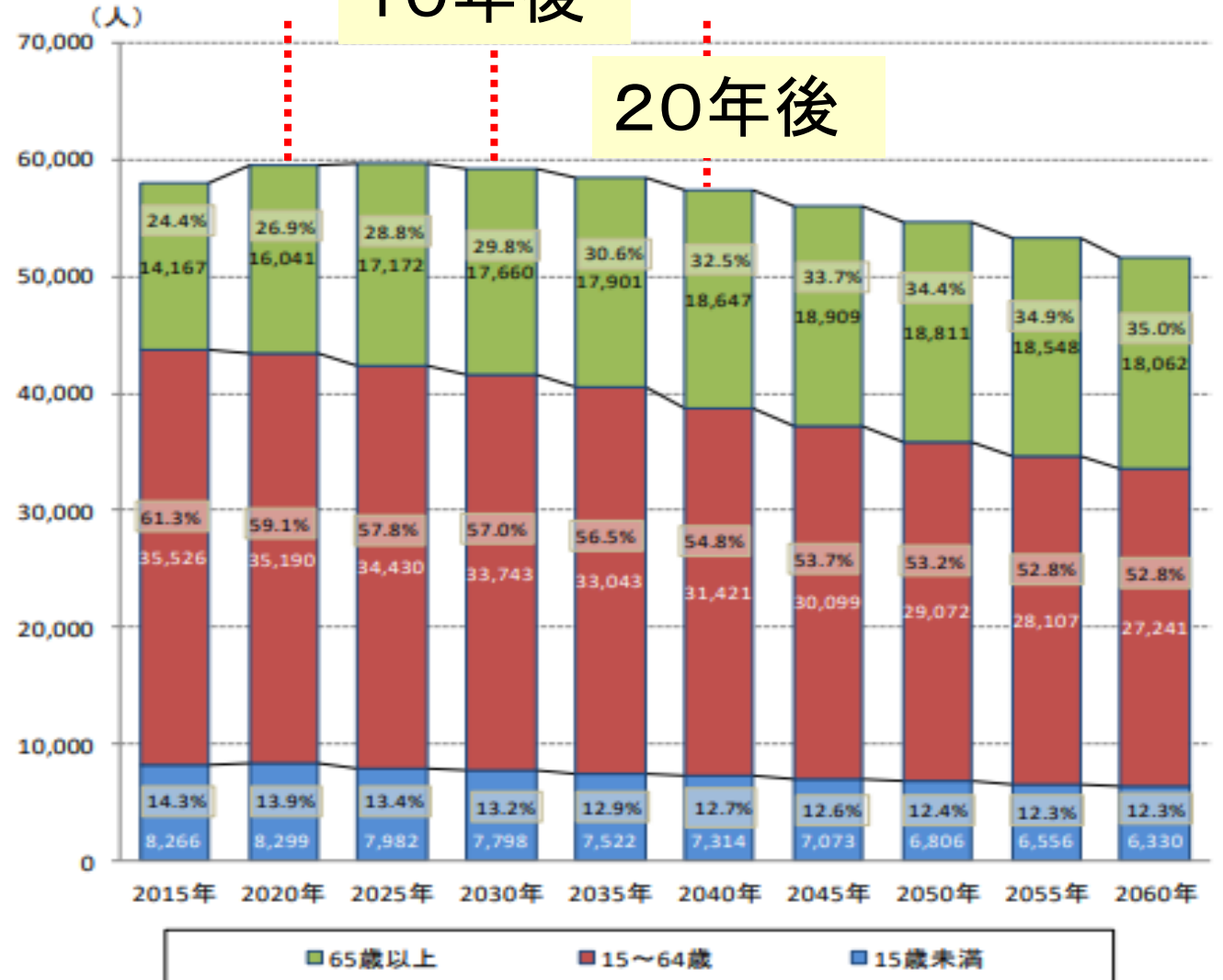
1年で
生まれる
赤ちゃん
458人
2020年

少子・超高齢化は必至

どのように備えるかが肝心

パターン③：第1期 社人研準提+ 10年後 比率

	2020年	2030年	2040年
65以上	16,041	17,660	18,647
15～64	35,190	33,743	31,421
15未満	8,299	7,798	7,314
高齢化率	26.9	29.8	32.5

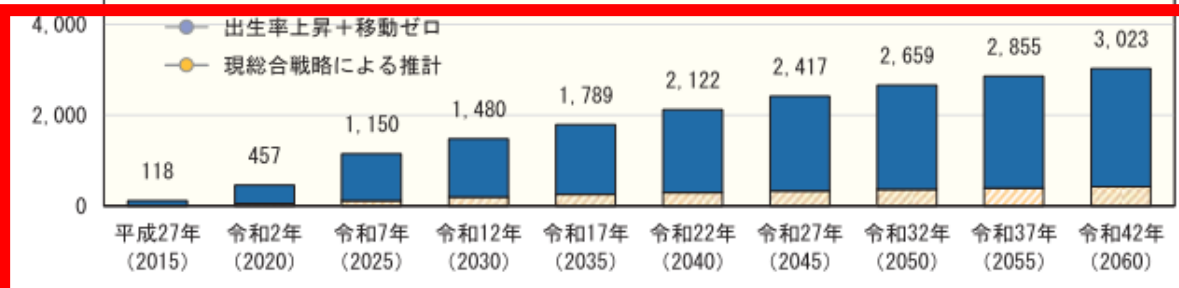
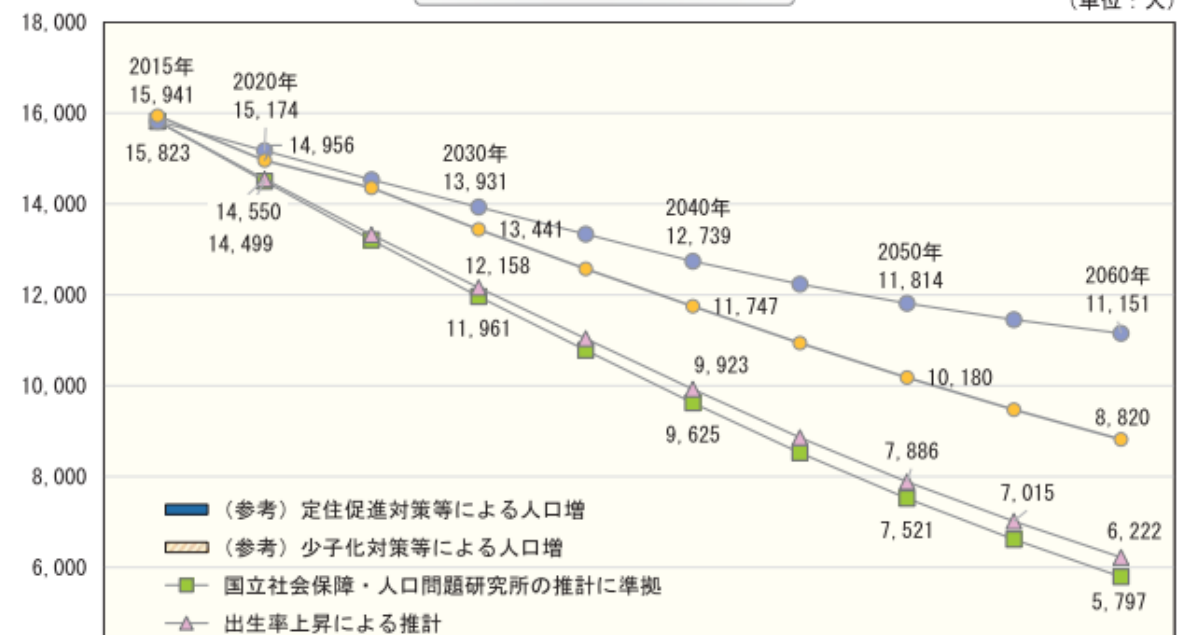


比較参考

大分県玖珠町 第6次総合計画

少子化対策と
定住促進対策による
人口増の計画を
作成しています

図表 各推計の比較（総人口）



図表 (参考) 現在の将来人口を維持する場合の少子化・定住促進等による人口増(累計)

	2015年	2020年	2025年	2030年	2035年	2040年	2045年	2050年	2055年	2060年
少子化対策	0	51	120	196	256	298	333	365	396	425
定住促進対策	118	406	1,030	1,284	1,533	1,824	2,084	2,294	2,459	2,598
計	118	457	1,150	1,480	1,789	2,122	2,417	2,659	2,855	3,023

総合計画におけるSDGsの記載はこれだけ
皆さんはどう思いますか？

【持続可能な開発目標】

SDGs（持続可能な開発目標）は、平成 27（2015）年 9 月の国連サミットにおいて採択された令和 12（2030）年を期限とする、先進国を含めた国際社会全体の開発目標です。持続可能な世界を実現するための 17 の目標（ゴール）と 169 のターゲットから構成され、地球上の誰一人として取り残さないことを誓っています。

「策定の背景」の中に
用語解説のように記述されているだけ。

2 SDGs(17の目標)に対応した計画施策体系



持続可能な開発目標（SDGs）は、2030年までに持続可能でよりよい世界を目指す国際目標です。17のゴール・169のターゲットから構成され、国内でも各地で取り組みが進められています。

〈基本計画におけるSDGsの考え方 17の目標と施策の関係〉

基本理念	基本施策	重点施策	1	2	3
			貧困	飢餓	健康・福祉
次代を担うこどもたち	基本施策1 地域に活力があるまちづくり	施策1-1 町民協働・地域コミュニティの充実			
		施策1-2 まち・地域づくりの担い手の育成			
		施策1-3 移住・定住の促進			
		施策1-4 関係・交流人口の創出			
未来をつくるまち	基本施策2 健やかに自分らしく暮らすまちづくり	施策2-1 健康づくり・保健衛生の充実			●
		施策2-2 地域福祉の充実	●		●
		施策2-3 子育て支援の充実	●		●
		施策2-4 高齢者福祉の充実	●	●	●
		施策2-5 障がい者福祉の充実	●		●
住んでよきまちづくり	基本施策3 未来へつなぐ、ひとづくり	施策3-1 幼児・学校教育の向上と青少年の健全育成			
		施策3-2 生涯学習の推進			
		施策3-3 文化財の保護と活用			
住んでよきまちづくり	基本施策4 にぎわい・活気を興すしごとづくり	施策4-1 農林業の振興		●	
		施策4-2 商工業の振興	●		
		施策4-3 観光の振興			
		施策5-1 住環境の整備 (公共交通・道路・上下水道・情報通信基盤)			

4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17
教育	ジェンダー	水・衛生	エネルギー	成長・雇用	イノベーション	不平等	都市	生産・消費	気候変動	海洋資源	陸上資源	平和・公正	パートナーシップ
						●							●
●							●						●
				●	●		●						●
					●								●
						●							●
													●
													●
													●
													●
													●

比較参考
大分県玖珠町
第6次総合計画

SDGsとの
関連を明記

SDGs: 持続可能な開発目標、国際目標
目標は2030年、小中学生も授業で学ぶ



未来に希望が持てる計画か？
なぜSDGsに触れないの？



企業誘致、働く人の受け皿
住宅政策はあるの？



健康と地域づくり
10年後安心できる計画か？



成果を測る数値目標は？
「上昇」はいくらなんでも・・・



全職員・部署での議論は？
タテ割りの弊害は？



市民、特に若者や中高生に
読んでもらえる計画か？

新型コロナウイルス対策

ワクチン接種・古賀市の状況

11月11日時点

集団接種は
11月7日で終了

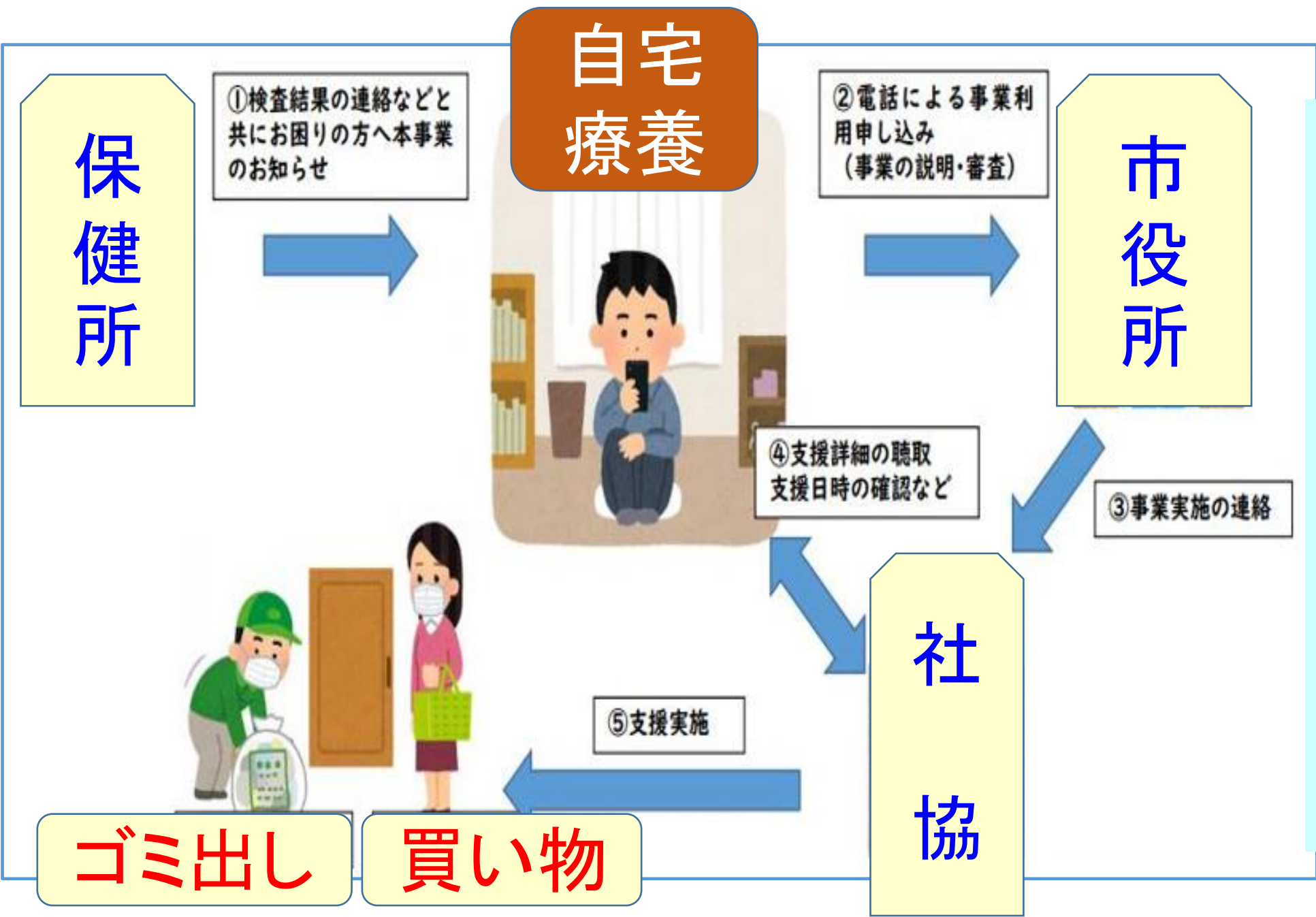
	65歳以上	全対象者 12歳以上	10代	20代	30代	40代
1回 接種済	93.1%	84.9%	71%	75.4%	77.5%	84.2%
2回 接種済	92.5%	82.6%	63.6%	70.6%	74.1%	82%

	全国	福岡県
1回 接種済	78.2%	76.7%
2回 接種済	74.7%	72.4%

3回目ワクチン接種の予定
①12月以降、医療従事者
②来年1月以降、高齢者の予定

コロナ自宅療養者への買い物・ゴミ出し支援
福祉課 942・1156 に「ご相談を！」

自宅療養者の情報提供 県と覚書締結へ



古賀カキ駅東口

開発構想

古賀駅東口 開発コンセプト

1) 賑わい

多様な人が訪れ、出会い、賑わいを楽しむ場の創出

2) 多様な世代の居住

様々な世代、世帯形態に対応した多様な住まいの供給

3) 回遊性

歩いて暮らせる回遊性のあるまちづくり

4) 魅力の発信

古賀市のストック(地域資源)を生かした魅力の発信

5) 印象的な空間

古賀市の玄関口にふさわしい印象的な空間・景観の創出

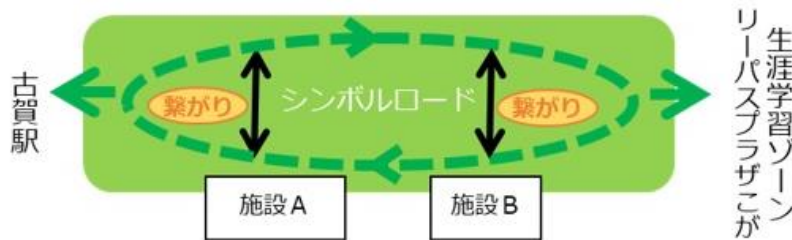
●古賀駅とリーパスプラザを繋ぐシンボルロードを整備

●賑わい施設、利便施設、居住施設を配置

●利用規制(占用規制)の緩和を目指す



地域課題の解決
(ひと中心の豊かな生活の実現、地域経済の維持・活性化、地域特性を活かした魅力の創出)



古賀駅東口 開発イメージ



薬王寺「快生館」 インキュベーション

経費名	金額	合計
1期工事	5000万円	2億6481万円
2期工事	3500万円	
開設準備費	4524万円	
管理運営委託（5年間）	1億2897万円	
借用料（4か月）	200万円	
（5年間）	1800万円	



24万4000円/月、5,500円/時



17,600円/月、2,200円/日



9万8000円/月



薬王寺「快生館」料金メニュー

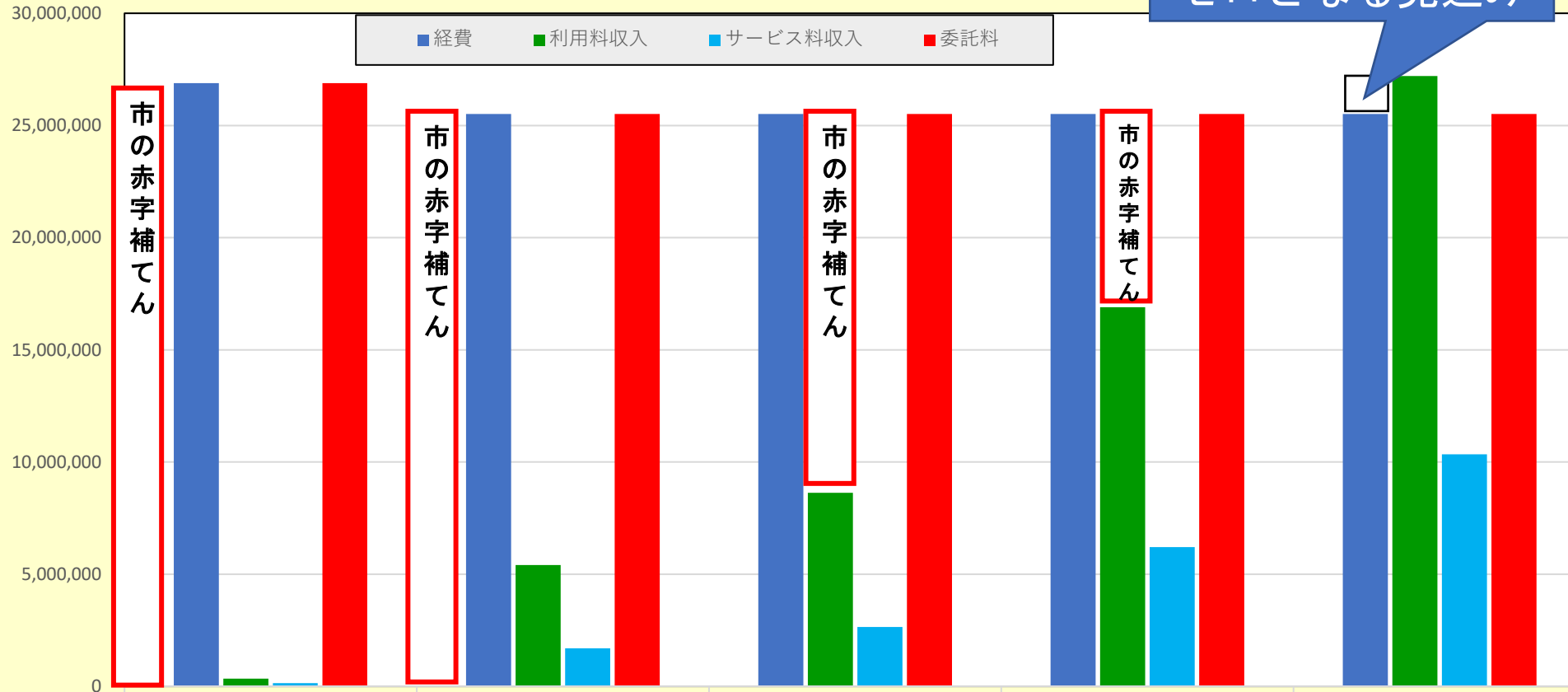
	商品	曜日	時間	料金(税込)
ワーク 利 用	フリーアドレス	月～土	9:00～20:00	17,600円/月
	オフィス	月～土	9:00～20:00	98,000円/月
		月～土	9:00～20:00	244,000円/月
	ドロップイン	月～土	9:00～18:00	2,200円/日
スペース 貸切利用	スペース利用	月～土	9:00～20:00	5,500円/時 ～

管理運営を(株)SALTと1億2897万円で契約（5年間） 新たな収支見込

薬王寺「快生館」インキュベーション収支見込（株）SALT作成

2021年10月25日・総務委員会提出

5年目に委託料はゼロとなる見込み



■ 経費	26,890,000	25,520,000	25,520,000	25,520,000	25,520,000
■ 利用料収入	342,100	5,412,000	8,631,700	16,898,200	27,205,200
■ サービス料収入	137,500	1,695,100	2,642,200	6,206,200	10,338,900
■ 委託料	26,890,000	25,520,000	25,520,000	25,520,000	25,520,000

- 総務委員会で分かったこと（10月25日）
- ① 委託先は公募型プロポーザルで2社の中から選定
 - ② 3年日以降、委託料から利用料収入を差し引く
 - ③ 受託業者の収支見込によれば5年目から委託料はゼロ
 - ④ 5年間の古賀市の実質負担見込みは7792万円

公共施設 総合管理計画

市民体育館、千鳥苑の将来

公共施設等総合管理計画【第1期アクションプラン】(案)

2060年までの40年間に総延べ床面積を約2割圧縮
コスト面では約54億7千万円の削減

第1期アクションプラン: 2021年度～2030年度

施設名	面積 m ²	機能	建物	備考
市民体育館	1175	移転	廃止を含め検討	計画期間内に、 関係団体と協議を行い、 施設の方向性について 明らかにする
クロスパルこが	7242	維持	複合化を検討	
米多比児童館	433	移転	廃止を検討	
あすなろ教室	66	移転	廃止を検討	
市民活動センター	45	移転	廃止を検討	
千鳥苑		移転	廃止を含め検討	2022年度に築45年
学童保育所		維持	維持修繕	余裕教室への機能移転を検討

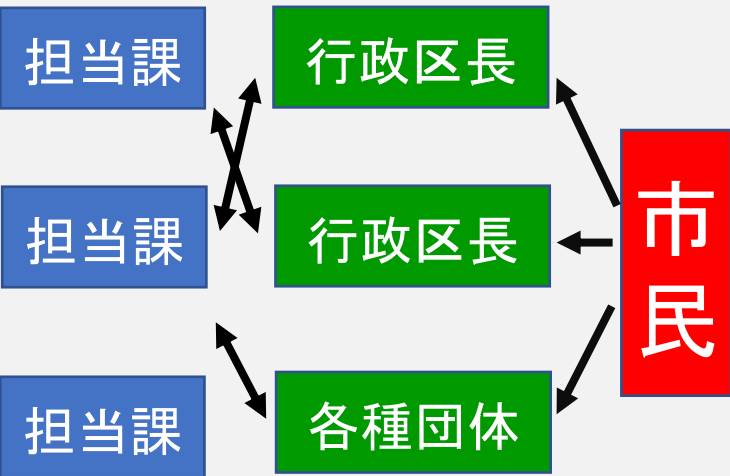
校区コミュニティ

「大きな転換」を検討

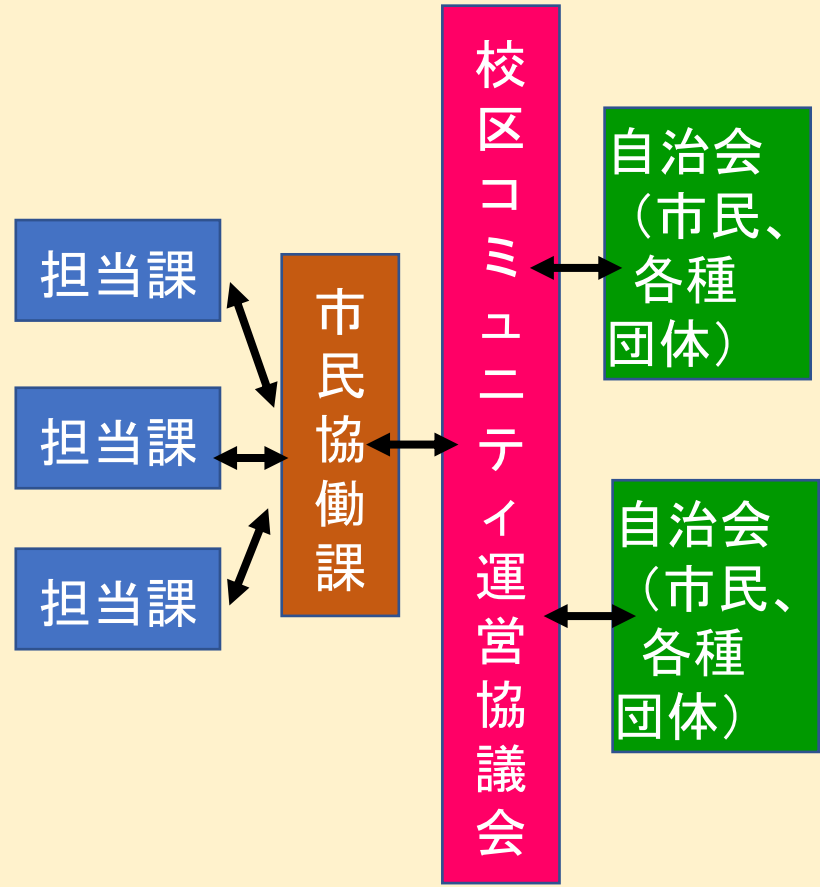
校区コミュニティ方針を大きく転換

これで地域コミュニティは維持できるか？

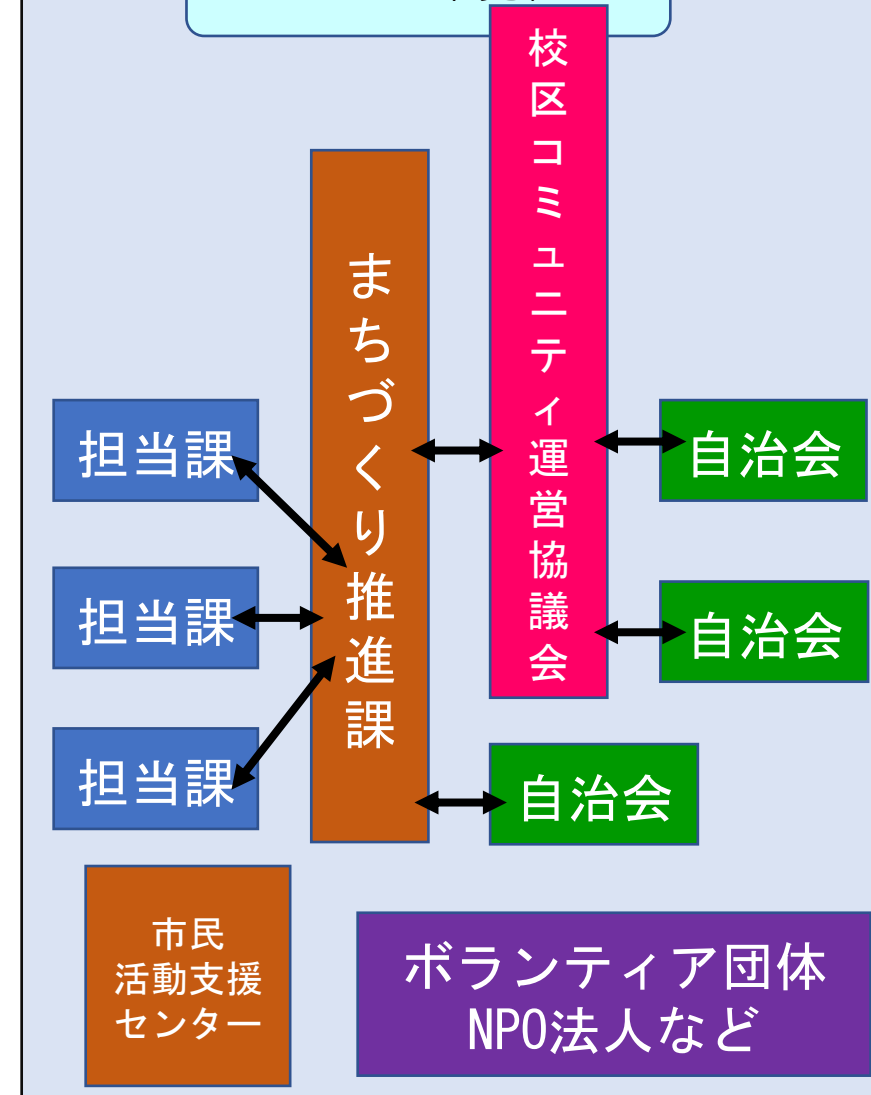
2005年以前



2005年「指針」以降



2021年見直し



校区コミュニティに集約しない
その設置を求めない

対話のテーマ

① 疑問や意見

② 市の提案をどうするか

対話のルール

- ① 発言は3分以内でまとめます
- ② 他人の意見を最後まで聴きます
- ③ 他人の意見を否定しません